

＜先週の説教から＞

『詩編 38 - あなたの矢が私を貫き』

武田真治牧師

詩編 38:1-22 マタイ福音書 8:5-13

今日の詩編38篇は《病にある人の祈り》と呼ばれています。解説者は、それがどのような病気であったかを特定しようとして来ました。4節に「わたしの肉にはまともなところ(=メトーム、定まり)もありません。骨にも安らぎ(=シャローム)がありません」とあるところから、これは高熱による体のダルさや震えの症状と考えられています。ただ、6節に「傷は膿んで悪臭を放ちます」とあり、また8節には「腰はただれに覆われています」ともあるので、重い皮膚病とも考えられて来ました。また、解説者の中には6節の「わたしが愚かなことをしたからです」という告白を重く採って、梅毒などの性病を疑う人もいます。いずれにしろ、複数の症状が出ている、苦しい病状であったことは事実でしょう。

更に、病気そのものの辛さだけでなく、11節では「心は動転し、目の光も去りました」と、精神的にも弱くなってしまったと告白しています。更には「病にかかったわたしを愛する者も友も避けて立ち、遠く離れて」いるとも。これは伝染病と疑われることで、隣人や家族にまでも避けられる辛さも味わっています。そして、ついには13節「わたしの命をねらう者(=死)は罫を仕掛けます。災いを望む者(=悪魔)は欺こう、破滅させよう」と迫られていると感じるまで、追い詰められている状態なのです。このような病の状況は、私たちもよく分かる、覚えがあることではないでしょうか。そして、私たちなら『どうして神様は助けてくれないのか』とか『神様が私を見捨てたのなら、私ももう神様には頼らないし祈らない』等と思ってしまうのではないのでしょうか。

しかしこの祈り人はあくまで「主よ、わたしはなお、あなたを待ち望みます。わたしの神よ、御自身でわたしに答えてください。」と願うのです。その理由は、この病も神様が与えられたもの、起こされたものということを決して疑わないからです。その原因が自分の「犯した罪」にあると。それ故、

この病の“癒し”も神様以外から来ることはない、神様以外には治してもらえないと信じ切って、悔い改めの祈りをしながら、神様に癒しを願っているのです。それに比べ、私たちはここまで厳しく、自分の病を神様との関係で考えているだろうか、中途半端になっていなかと反省させられます。

この詩編は、根本的に私たちが“病氣”をどう捉えたらよいのかを考えさせる詩編となっています。ただ勿論、私たち自身に“病の原因”がある場合もありますが、不慮の事故や遭遇によって与えられてしまうものもあり、むしろ『どうして?』と考え込んでしまうことの方が多いと思います。そのような時には、あの生まれつき目の不自由な人を癒されたイエス様が『本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである。』と言われた言葉(=ヨハネ9章3節)が支えとなるのです!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 1月10日(水) 20:00
II. 1月11日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題: 新成人を覚えて
担当者: (水) 飯島 (木) 小岩
祈りに覚える人: 西尾さん 盧さん

【教勢報告】

主日礼拝 男24 女49 計73
祈祷会 I. II. 休会
日曜学校 幼稚科0 小中科4 計4
元日祈祷会 男11 女25 計36

【次週主日礼拝】 1月14日(日)

聖書: ミカ書 7:17~20
ルカによる福音書 2:28~32
説教: 「ミカ⑩ 最終回—あなたのような神はおられない」 武田真治牧師
讃美歌: 211(1)、32、552(1~3)、522(1~3) 419(1~5)、28

【次週当番表】

司式: 相浦 長老 奏楽: 須田 礼拝: 齋藤 長老
献金: 相浦 青島 受付: 鈴木 橋本
会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村 森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茨木

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・牧師と語る会 ・お茶の会 ・壮年会(新年会)
・婦人会(新年会) ・ダビデ会

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

2024年 1月 7日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>